

令和4年度 自 己 評 価 表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する	今年度の 重点目標	・職業人としての基礎的な力の育成（授業改善、職業教育・進路指導、生徒指導） ・地域社会とつながりながら生きる力の育成 （地域・企業連携、自治的活動、啓発・広報活動） ・働きやすい職場、一人一人が成長できる組織作り（人材育成、時間外業務削減）
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 （ ）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
職業人としての 基礎的な力の育 成	○授業改善 ～「考える力」をつける～	・計画的な教科グループでの話し合いや授業公開、および授業実践シートの作成等を行うことで、教職員の授業改善への意識が高まってきた。 ・大規模な人事異動により様々なキャリアの教職員が在籍しており、教職員一人一人の専門性や授業力の向上をねらった取組が必要である。	○生徒の「考える」姿が見られるように、教職員が日々の授業を振り返り、授業改善に取り組んでいる。	○教科グループで授業づくりの研修会を行い、授業展開や重点事項等について職員で共有する。 ○外部講師を招聘し、専門性の向上をねらった研修会を行う。 ○授業研究会を行い、授業を振り返り、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組み、教職員で成果と課題について共有する。 （就労準備性チェックリストの実施）			
		○前年度の生徒アンケートの「授業はわかるか」「授業は楽しいか」は、肯定的な回答が増加した一方で、「わかる」の上位回答が低下している。 ○「考える力をつける」授業づくりに取り組んだことにより、職員アンケートでは9割超の指導者が、意欲が育ちつつあると感じている。	○学習の基礎となる「学習のルール」を守り、自らが考え、学ぼうとする意欲が育っている。 ○生徒アンケート「授業は楽しい」の回答が前年度と同程度を維持し、「授業がわかる」が増えている。	○「考える力」をつけるための授業改善を、教務部と研究研修担当が連携しながら取り組む。 ○より学習に集中して取り組めるよう、「学習のルール」の定着を図ったり、学習環境を整理したりする。 ○授業改善の取り組みを促進するため、後期に集中していた教科会を年間を通して実施できるようにする。			
	○職業教育・進路指導の 充実 ～自分を見つめる～	○専門教科の目標の共有が不十分である。また、人事異動に伴い、技術力等の継承が課題となっている。	○一般就労という目標を全職員が共有し、指導に当たっている。 ○各コースの技術等が継承されている。	○学科会や担当者全員で行うコース会の内容を再考する。 ○進路と連携し、研修等を行う。			
		○生徒一人一人の働くための課題について、専門教科の学習で解決しようとする意識に差が見られる。	○現場実習での生徒一人一人の課題をコース担当者及び生徒自身が理解し、専門教科の学習を行っている。	○生徒の課題について、指導する教員全員で共有することを促す。また、生徒が自分自身の課題を意識できる授業づくりについてコース会等で話し合う時間を確保する。			
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	（1年生）自分の良さと課題を理解している。 （2年生）自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 （3年生）自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団や学科部と進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を身に付けるきっかけとして、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。			
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断 力をつける～	○多くの生徒がSNSを利用している。 ○生じたトラブルについて、生徒だけで対応してしまうことで拡大・複雑化してしまうこともある。 ○SNSの使用時間や内容によって生活リズムが崩れたり、学習に向かえなかったりする生徒もいる	○保護者とともに決めた携帯電話等の使用ルールを守ることができる。	○保護者とともに「我が家のルール」を作成し、定期的に見直しを行うことにより、使用ルールの意識や再確認を促す。 ○個人懇談等を通じて、保護者と情報共有を行う。 ○具体的なネットトラブル事例を題材とした生徒・保護者・教職員対象の各講演会や研修会を実施する。			
		○学校生活アンケートで挨拶や返事、言葉遣いができていない、生活リズムが整っていない、学習ルールが守れていないと答えている生徒が2割程度いる。また、できていないと答える生徒もあり、基本的な生活習慣が十分に定着していない。 ○自己肯定感が低く、すぐにあきらめたり自らの課題に向けて具体的な行動に移せなかったりする生徒がいる。	○生徒が自分の生活や行動に課題意識を持ち、改善するために生活や学習の中で取り組んでいる。	○基本的生活習慣や規律を守ることがなぜ大切なのか、将来にどのようにつながるのか職員間で共通理解し、LHR等で随時指導する。 ○担任面談や学習の中で、生活や学習態度を振り返り、どうしたらよいのかを考える活動を設定する。 ○課題に向けて具体的な行動をスモールステップで一緒に考えたり、できるようになったことを確認したりする。			

		○ブラッシング指導等、歯と口の健康に向けての取組後、歯の治療率が昨年度の30%から昨年度は50%に増えた。しかしながらまだ半数なので引き続き取組が必要である。	○自らの歯と口の健康に関心を持ち、課題を見つけ、主体的に行動できる自己管理能力が育成されている。 ○地域や家庭と連携し、関係機関の協力を得ながら課題解決に取り組むことができる。	○関連教科で時期に合わせて取り扱い、理解を深める。 ○委員会活動を通して、啓発を行い理解を深めていく。 ○保護者・地域との連携を強化していく。			
		○挨拶・掃除・整理整頓など、寄宿舎での基本的生活習慣が定着していない舎生が多い。	○基本的生活習慣が身に付き、定着している。 ○1年生はゴールドマイスター9割、2・3年生は生活の達人8割。	○マイスターチェック表を基に職員間で情報交換をしたり、舎生と面談をしたりして、定期的に振り返りを行う。			
地域社会とつながりながら生きる力の育成	○学校運営協議会の活用（地域連携・企業連携の充実）	○昨年度、2回の会議を実施した。コロナ禍により、校外での学習等の実施が難しいことはあったが、その中で地域や企業との連携を図っていく視点で協議を行った。	○幅広い分野から参加いただいている委員の方からの助言を受けながら、本校の教育活動の可能性を広げていく。	○コロナ禍の中でも、可能な地域や企業と連携した取組についての助言を受けながら、現在の状況でできる活動を推進していく。			
		○昨年度は新型コロナウイルス感染症への対応により、企業を対象とした学校公開が一度しか実施できなかった。 ○企業とのつながりをつくる工夫が不十分である。	○幅広い分野から参加していただいているという強みを生かし、情報提供を受けるとともに情報発信を行うことで連携が推進されている。	○企業へ向けた情報発信やつながりの作り方を検討し、コロナ禍においても積極的に連携する。 ○学校運営協議会において、就労の視点も含めて協議を行う。			
	○自治的活動の推進～生徒が考え行動する～	○学校生活に対して自分なりの考えを持っている生徒は多いが、自主的に発信しようとする意識が少ない面が見られる。	○よりよい学校生活を築こうとする意欲・行動力を身につけ、生徒が自発的に問題点や課題等を改善・解決するために考えている	○生徒主体による、全校レクリエーションを行う。（自信につなげるために、無理のない範囲で準備・運営を行う。） ○生徒総会を、年間2回実施する。			
		○寄宿舎でのサークル活動があまり活発ではなく、活動するときも寄宿舎職員が主導して行うことが多い。	○舎生が主体的にサークル活動を計画・運営し、どのサークルも月1回程度は活動を行う。	○サークルの結成から舎生自らが行うようにする。サークル結成後はサークル顧問が助言をしながら、舎生が主体的に活動を計画・運営するようにする。サークル活動費の請求も舎生が行い、サークル運営に関して責任を持たせる。			
		○例年に比べ、部活動に参加する生徒が減少している。 ○部活動で運動したり文化活動をしたりたいと考える生徒も一定数いる。 ○コロナ禍で、イベントや大会が中止となったり、休日や余暇活動として活動できる場が少なくなったりしている。	○休日や余暇の時間に、運動をしたり文化活動をしたりする生徒が育っている。 ○将来的にも運動や文化活動に参加できる環境が整っている	○部活動参加率を昨年度より上げる。 ○部長会の活性化を進め、生徒が主体的に活動できるようにする。 ○生徒の活動場面や大会参加状況について情報発信を行う。（ホームページ・Facebook） ○地域のスポーツクラブや文化活動を紹介するとともに、参加生徒から楽しさを伝えられるようにする。			
	○啓発・広報活動の工夫（保護者、地域住民、小中学校、企業等）	○コロナ禍により、対面による啓発・広報活動が縮小を余儀なくされている。	○Facebookや学校ホームページ、学校だより等の様々な媒体で、地域や企業、入学を検討している生徒に対し、学校の啓発・広報活動が進められている。	○定期的な記事と変化のある記事を混ぜながら、必要な情報が盛り込まれている学校ホームページを更新していく。 ○Facebook担当を校務分掌の中に位置づけ、進路部、寄宿舎と連携しながら更新していく。 ○日々のより詳しい学校生活や寄宿舎生活の様子を伝えるために、ログインページをより充実させる。 ○感染症対策を徹底したうえで、できる最大限の公開方法で、地域や学校への発信や受け入れを積極的に進めていく。			
		○実際に教育の成果を知ってもらう機会が少なくなっており、職業的・社会的自立を見据えた進路選択につなげていけないだけの情報が、地域の学校に十分に伝わっていない。	○「琴の浦の教育」について発信したり、地域の関心や疑問に応えたりするための工夫ができている。	○参加型の啓発・広報活動の場合は、規模や方法を工夫し実施する。 ○地域支援活動について各学校へ周知を図るため、県や地教委と連携する。 ○地域の教職員を対象とした情報発信の場を企画・実施する。			
働きやすい職場・一人一人が成長できる組織作り	○校内組織の改編、校内研修・授業研究の工夫（人材育成、時間外業務縮減・業務改善等）	○昨年度は時間外業務が年間360時間を超える職員はいなかったが、個々の差は見られる。	○引き続き、業務改善を図り、時間外業務を縮減する。（月45時間・年間360時間内）	○衛生委員会において、個々の業務・健康状況の確認や業務内容等の検討を行い、状況に応じて適宜声かけ等を行う。 ○各分掌や分掌間での業務の見直しや分担を図る。			
		支援部・教務部（再掲）					